

正副議長就任記者会見 会見録（概要）

日 時：令和2年5月15日 13時50分～

場 所：議事堂6階 602会議室

（質問）一人ずつ、就任にあたっての意気込みを一言ずつ言っていただけますか。

（議長）今日の午前の会議で、先輩、同志の皆さまから、あたたかいご支援をいただきまして、このたび、第110代の三重県議会議長に就任させていただきました日沖正信でございます。もとより、浅学非才な私でございますけれども、今日から議長という重責を担わせていただくことに、身が引き締まる思いでございますけれども、服部副議長さんと共に、ご助言をいただきながらしっかり連携を取って、各会派の皆さんの活発なご意見に耳を傾け、もちろん少数会派の方々の意見を尊重させていただきながら、円滑な議会運営に、いい意味で和を持って、さまざまな諸課題に向き合っていけるような議会運営に心がけて参りたいと思っておりますので、これから1年、まずは皆さまにご指導いただきますようによろしくお願いいたします。

私が議長を務めさせていただくにあたって、議会改革推進県と言われます今日までの議会改革の積み重ねというものをしっかりと尊重させていただきながら、またその象徴とも言えます三重県議会基本条例を常に基礎といたしまして、三重県議会のたゆみない前進、改革に心掛けて取り組んでまいりたいというふうに思っております。所信表明でも述べた部分ですけれども、私たちが今取り組んでいかなければならない重要課題については、たくさんございますけれども、やはり今は何より喫緊の課題といたしまして、新型コロナウイルス感染症に関わる対策が急いで求められております。緊急事態宣言は解除されましても、予断は許されない状況でございますので、長期にわたることを見据えた対策が必要と思われましますので、県民生活や地域経済再建への課題や対策の検証などにつきまして、まずは各常任委員会で県民の皆さまに寄り添って議論を腰を据えて進めていただきたいと思いますところでございます。

また、かねてから、政策立案が、活発な三重県議会でございますので、今、政策提言をする形として、三重県産材利用促進に関する条例検討会が進んでおりますし、またこの後も、差別の解消に関わる条例の検討も、出てまいりますけれども、ぜひ皆さん、今現在も関わっていただいております委員の方々は、本当に熱心に、より身のあつものを作っていこうということで取り組んでいただいておりますので、ぜひこの議員提出条例というものについても、県民の皆さんのためになる内容の濃いものにしていただけるようにと期待させていただいております。またその時そのところからより発信をして、県民の皆さんと共に作っていける議会になっていけたらなというふうに願っているところでございます。また私も議長の立場から積極的に寄与させていただければと思っております。

それと少し、私自身が議長にならせていただいたらということで思わせていただいたところですが、今まで、なかなかこう、他の自治体議会との関わりとか連携

というところが、ちょっとお休みみたいに滞っていた時期がございます。理由はいろいろあるんだと思いますけれども、しかしながら、まず、三重県を構成いただいております市町さんとは、やっぱりしっかり連携をとっていくことがいい三重県を作っていくために必要だと思いますので、今何をっていうことはないですけども、ぜひ何らかの形でもう一度、県内の市町の議会さんと何か連携なり図っていけるようなことを考えていきたいと思っております。

それともう一つは、若い方々とやっぱり議会は、選挙も18歳からというふうに今なっておりますし、若い方々と議会が繋がれるっていうことを、より求めていきたいと思っております。ただ、所信表明で副議長さんからもございましたけれども、今年は新型コロナウイルス関連の予防対策が重要な年となっていて、高校生県議会を初めいろんな広聴広報でお世話になっておるものがちょっとお休みしなければならないような関係になっておりますので、何らかの形で、この高校生県議会がない分、高校生と繋がるものがないかと、ちょっと副議長さんと相談させてもらいながらやっっていければなというようなことも、就任に当たって思わせていただいておりますので、副議長さんとは地元、出身も隣同士でございますし、会派を超えて比較的親しいお付き合いをさせていただいている間柄というふうに思わせていただいておりますので、ぜひ良い意味で連携を深めさせていただいて、しっかりと会派それぞれのご意見をできるだけしっかり受け止めながら、副議長さんとの連携でできるだけ円滑な議会運営が進めていけるように、頑張っていきたいというふうに思っておりますので、皆さまにはこれから1年間大変お世話になりますけれども、どうぞよろしくお願ひします。今日はどうもありがとうございます。

(副議長) あらためまして、皆さんお忙しいところ申し訳ありません。副議長に就任させていただきました服部富男でございます。議長からいろいろとお話もいただきました。私の場合は、副議長として議長の補佐をさせていただいて、議会運営の推進に努力をしなければいけない1年でございます。

ですがやはり、先ほども議長おっしゃったように、新型コロナウイルスの今ちょうど折り返し地点のような状況の中で、収束するのか、これから非常に厳しい経済状況にもなってくるのではないかなというように思っております。実際、この経済が進まないところの中です、これから財源も来年度に向かっても、非常にその三重県の財源自身がですね、非常にこう厳しい状況というので、今後どうするのかというように思いで、この1年間努力をしなければいけないなという思いでございます。お話いただいた経済対策等々については、私からは述べることはないのか分かりませんが、やはり二元代表制という今の三重県議会ですね、これから進んでいくにはもちろん財源を確保することに関して、これ常任委員会等々です、ご審議いただくわけでございますけれども、やはり事業の見直し等もですね、考えていかなければいけないのではないかなという思いであります。もちろん大事なその事業はですね、我々も議案を通してきたわけでございますので、やはり可決した責任もでございます。ですが、やはりこの緊急対策を迎えることに関して、これから新型コロナウイルスで解除されて、

これから沢山の方が三重県にも観光で来ていただく。そして、またお仕事でも来ていただけるようなですね、三重県になっていく場合、またやはり厳しい第2波、第3波と発症があるのではないかという心配もしております。

私の場合は、副議長という立場でいきますと、広聴広報の座長としてこの三重県をどのように発信をしていくか、やはり今のこの現状を皆さんにも分かっていたいただけるような分かりやすいみえ県議会だよりであったり、そしてまた、今、議長も言われました、高校生県議会も中止をして、延期になるのかどうか分からない。こういう状況の中で、もちろん学校自体がこれから進んでいけるのかどうか分からないという状況の中で、我々は議長、副議長という形のスタートでございます。またあらためて皆さんのいろんなご指導をいただいて、努力をさせていただきますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。簡単なご挨拶になりまして申し訳ございませんが、1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

(質問) ちょっと1点だけ議長に質問があるんですけど、今、副議長からもちょっと言及ありましたけど、事業の見直しというところも検討に入ってくるのかなという気もしているんですけども、コロナウイルスの今課題ってどういうふうに捉えていますか。コロナウイルスに対する課題として、どういったことが必要かというところ、どう捉えていますか。

(議長) 課題は全般ある、全般的に影響が及んでいるんでしょうけれども、ちょっとお答えとずれたらごめんなさい、申し訳ないんですけども、まず議会として、どのようにこの県民の皆さんに寄り添いながら、執行部に対して実のあるように提言なり意見具申をしていけるかということだと思います。ですから、ちょっとご挨拶の中でも、委員会でしっかりというようなことも添えさせてもらったんですけども、私たちの課題は、いかに県民の皆さんの社会経済なり生活の再建に向けて効果的な施策を打っていただけるかということをしつかりと吟味をして、二元代表制の片輪として務めを果たさせていただくことと、それから余談になりますけれども、三重県民力ビジョンとかその行動計画についても、おそらく医療の面であるとか、また中小企業対策であるとか、いろんな教育の関係であるとか、おそらく吟味をしていく中で、ちょっと変えていかなければいけないところとか、認識を新たにしていかなければならないところとか、いろいろ出てくると思いますので、そういうところも含めてですね、しっかりと、一時的にこうやああやと言うだけじゃなしに、しっかりと腰を据えて、後々の検証も含めながら、進めていくということだと思います。

(質問) 第二さんも含めてご質問をお願いします。

(質問) 議長からお願いします。無効票が9票出てましたよね。それについては何かご感想ありますか。

(議長) 私の性格上、無効票もあるわけですがけれども、100%入れていただけるといのは、そもそも、なかなか、皆さまの立場もあるでしょうし、私ももちろん、至らぬところの多い議員でございますので、正直ですね、無効票9票、中にはいろいろご事情があるとは思いますが、私としては無効票9票だけでこうやって、42票入れていただいて、信任投票という形で、この場におらせていただいておりますので、特に不足もございませんし、無効票9票についてはそれぞれのご事情なり、私の至らぬところがそういう形で出たんだなと思っておりますけれども。

(質問) 所感的なものではなくて、実際問題20%の議員が、議長就任にはクエスチョン付けているとなると、実際まとめていくときに9人の人間を、これ20%外したらいけないわけじゃないですか。しかも、所信表明でおっしゃったように議会は一枚岩なんですよ。もともと。51人でやると知事ひとつの権限と同じという二元代表制の原点から言っても。だとすれば、9人外れているということだけでもかなり議会運営厳しくなるんじゃないですか。舟橋さんが議長の時に確か7票、無効票出てましたけど、あれを上回ってるわけですよ。その辺を、今後課題が多い中で、まして今、乱時だから。どういうふうに議会運営されるのかなって思ってます。

(議長) 当たり前ですが、誠心誠意、できるだけ各会派の声を聞かせていただきながら、あまり突っ走らないようにしながら、じっくりと耳を傾けて議会運営をさせていただくというしか、申し訳ないですけど、そう言うしかないです。

(質問) 祝いの席だからあまり過去を持ち出すのは格好がつかないけど、かつて食の安全・安心条例とか、二度ほど検討会の座長をやりながら、結局まとめきれなくて、丸投げして全協で決めたことがありますよね。その時、二度ご経験されている。個人的にはこれが三度目の正直でうまくやるのか、それとも二度あることは三度あるで、また丸投げというか先送りしてしまうというふうな危惧を持っているわけです。その辺をどうお考えですか。

(議長) これまでもいろいろご指摘をいただいているところでございまして、しっかりと心して進めさせていただきます。ですから、そういうところも含めて、無効票、白票でしたか。

(質問) いや、白票かどうかは分からない。無効票。

(議長) 無効票ということで、おっしゃられたようなところも含めて、そういう形で反映されたんだと思っておりますので、身を引き締めてしっかりとやらせていただくということしか今は申し上げさせていただけないのでよろしく願いいたします。

(質問) そのお覚悟で議長選に出られて、なおかつ議長になられたということですね。

副議長も同じ形で、10票出ましたけど、無効票が。これについてコメントお願いします。

(副議長) 内容的には分かりませんので、無効票ということでございます。私の、一言で言えば、不徳の致すところでございます。今までの議会活動について、ご理解いただけなかった部分があるのかなというふうにも思っております。ですからそれを、政局というふうな形でいくとなると、今言われましたけど、二元代表制でしっかりと、予算を含めて精査しなければいけないといったところでは、私は一致団結できていくのではないかなと、予算だけでございませぬので、議会運営は。私に対しても20%の方が反対をしておられると思います。私自身は、内容的なことは、どなたが入らせていただいたのか、入れていただかなかったのか分かりませんが、深く反省をしながらスタートさせていただきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

(質問) 所管されるという広聴広報の分野ですけど、何かもっと県民にアピールするとか具体的に策をお考えですか。

(副議長) みえ県議会出前講座とか高校生県議会が中止になっておるというのもご存じだというふうに思います。やはり、みえ県議会だよりの中に、今のこの詳しい内容等々、県議会の詳しい情報というものが、なかなか中に入っているのは少ないんじゃないかなと思っております。しっかりと委員の先生方と協議をさせていただいて、了解をとっていないのではっきりとは言えませんが、委員の皆さんの素直な声を一つずつ出していただいて、皆さんに分かっていただけるような、県議会こういうふうにしていただいておりますよと、こういうふうな思いでやっておりますよというのを含めて記事にしていって、皆さんに見ていただければどうかなと思います。いろんな特別委員会も開催をされて、私も所信表明で言いましたけれども、非常に厳しいコロナウイルスの中で、非常に大変な言葉を投げかけたり、行動された方がおられると、差別を受けられた方もおられると、知事の記者会見の中でも、そういったものは絶対になくしてほしいということ、コロナウイルスだけでは無いですが、特別委員会もできますので、そういったことをもう少し詳しくPRできたらいいなと、県民の皆さんに分かっていただければありがたいかなと思うのが、今、特別なところでございます。委員の先生方と協議して決めさせていただきたいと思っております。

(質問) 日沖議長にお伺いしますが、任期に対する考え方をあらためて教えていただけますでしょうか。

(議長) 所信表明の時に述べさせていただきましたことと同様ですけれども、三重県議会は申し合わせで2年ということになっております。この4年の始まりに中嶋議長さんが前職に就任されました。1年で辞表を出されるということでございましたので、私は残任1年を継いで、残任期間を担わせていただくというつもりで1年で辞表を出

させていただくつもりにしております。

(質問) 残りの期間を担うおつもりというその理由は、中嶋議長が1年を残して退かれたという経緯はもちろん分かっているんですが、その残りの期間を引き継がれるという理由はどういうことですか。

(議長) 中嶋議長さんも2年の任期、申し合わせ2年のところを1年で、一度辞表を出してという形で出て来られました。2年なんですけど、私も何で2年じゃないのということをおっしゃられるかもわかりませんけれども、前任者がそういう形でしたし、ある程度今の議会の状況の中でそれを私が2年ということはよう言いません。

(質問) 議長定例会見はどうするつもりですか。これ議会基本条例には書き込みはないので、その都度その都度議長さんが判断されたらいいだけの話なんですね。まして、議会基本条例を軸にとおっしゃるんだったら、それは今、日沖議長が「これはやらないよ、私は」ということも可なんですよ。これ慣例的に申し合わせというか、それだけの話なんで、基本条例に書き込むという話もあったけど結局議会は書き込まなかったんで、その辺はどうなんですか。

(議長) そのようなことを聞かせていただいておりますところもあったんですが、ずっとこのような形でお世話になっていとお聞きしていますので、そんなことは考えていませんでしたので、当たり前のように考えていましたけれども、私勝手にお返事させていただくと、副議長さんのあれもあるか分かりませんので、私は今までどおりと思っておりますが、副議長さんと意思統一させていただきます。

(質問) ということはペンディングで、この6月やるかどうかはとりあえずそれまでには決めるけど、とりあえず正副議長で話されて、場合によっては議長定例会見はやめるときもあるかもしれないということですね。

(議長) 多分やめることは無いと思います。

(副議長) 私が副議長の立場で言うというわけにはいきませんのであれですが、関連でですね、やっぱりいろいろな節目節目でですね、しっかりと議長の思いというのを出していただかないといけませんので、私は副議長として議長を補佐するだけでございますので、どういうふうにお考えなのか、議長のお考えに従いたいと思います。

(議長) 基本、今までどおりでお世話になっていきたいというふうに思っておりますが。特にそのことについてどうこうっていうふうを考えながらここへは来ておりませんでした。

(質問) 26年議長になったとき、永田さんはできたらやめたいみたいな意向だったんで、どうかなと思っただけです。

(議長) はい、よろしいですか。

(質問) その他特に質問はよろしいでしょうか。じゃあ以上になります。どうもありがとうございました。

(議長) どうもありがとうございました。一年よろしくどうぞお願いいたします。お世話になります。

(副議長) ありがとうございました。

(以上) 14時22分終了